

---

# 彼は全き人の子の

U

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼は全き人の子の

### 【Nコード】

N5408Z

### 【作者名】

U

### 【あらすじ】

彼は、王だった。

金の破滅、終末の王、凶兆の齎手、始まりの男。

そして私は、彼に喚ばれてここにやって来た。

キラキラ キラキラ

小さな光が降っている。

すまん、そうやって彼は笑った。

命絶えたこの世界。彼に喚よばれて私はここにやって来た。昔人間だったもの、白像と化した樹立に囲まれて彼は言ったのだ。

お前は帰れない。神へ誓約交わさせるまでは。共に来てもらおう。だから私は仕方なく、彼と歩いて来たのだった。

自分たち以外には息継ぐものも無い、この世界を。

始まりは、星だったのだと彼は言う。

誰もいない王宮で。その曲がった声は痛いほどに響いた。

ある日空から星が落ちてきて、そして死が密やかに速やかに世界を覆っていったのだと。

残ったのは彼だけだった。

離宮の奥の奥、隠され秘められ、大切に大切に……囚われていた彼だけが。

彼は言った。

「久々に外を見てみたい。道行きが一人では寂しいだろう。なに、旅の終着は神への見えまみとすればいい。願え、神に。お前にはそれが叶う」

私に与えられた能力は一つ。これを以って神と誓約を交せ。即ち、  
帰還は叶うだろう。

彼は唇を曲げてそう笑った。

「すまん」

あの時よりも幾分軽く彼が嗤う。それは腹立たしいことに、全く  
悪戯が成功した童子の笑みだった。

「嘘つき」

いや、彼は嘘はついていない。

「すまん」

ただ、口にしなかったただけなのだ。

神が誓約を交わす相手は、この世界に於ける王のみ。そのことを。

「別にいいけど」

薄々感づいてはいた。きっと最初から。

彼は器用に片眉を上げる。

淡雪のように、ほどけ、消えていく光を見上げながら私は呟いた。

「でも、許さない」

ほう、と面白がる語気。

「ならばどうする。私を下劣と罵り害するか。それもまた良かろう」  
「>>神と人の円卓<<」  
エクシユナクイチェ

彼が息を吸い込む音と、鉄槌の如き白光が天から振り下ろされたのは同時だった。

彼は、王だった。

金の破滅、終末の王、凶兆の齎手、そして、始まりの男。

三国賢人の予言に従い、彼は囚われの王だった。  
世界を知らぬ、世界を壊す、世界を始める王は、生まれ囚われ囚われのまま死んでいく筈だった。

彼が壊す前に、世界が死んでしまわなければ。  
けれど、世界は死んで。  
そして彼は。

白い円卓が、彼と私の間に現れた。そして私たちはいつの間にか席につき、向かい合って座っている。

これが私の能力。神も人も関係ない。相手を無理やり自分と同じ

土俵に引きずり込み、交渉の卓テーブルにつかせる、>>神エクシュナクーチェと人の円卓<<。

さあ、願え。

神は言った。

彼は、王だった。

大地は紫色に枯れ果てて、木々は黄色く腐り落ちた、この、しみ  
つたれた世界の。

「私の命をかける」

彼が願ったのは。

「私が死ぬまで、死ぬな」

この世界の命だった。

ぱちぱち、と固まっていた瞳が瞬いて、それが不思議そうにこちらを見る。

彼は神にこの世界の再生を願い出た。対価は自らの命。神の前に人の命も世界の命も同じこと。誓約は交わされた。

「……そのようなこと、初めて言われたぞ」  
「だって困るでしょ、あんたが死んだら。私はこの世界で一人ぼっちよ。退屈すぎて死んじゃう」  
「問題ない。帰還は私の力で行える。私はその後で」  
「大嘘つき」

これもまた、きつと口にしなかっただけ。すまん、と言葉だけの謝罪に続く。

「だから、お前は私の命を贖う必要などない」  
「まあ、ただの気まぐれだから、これは」

そう。ちょっとだけ、楽しかったから。  
二人で、死んだ石の道を延々と辿って行くのが。だから。

「もう少し、歩いてみない。ひょっとしたらどこかにまだ命が残っ

「ているかも」

「それは」

息を飲む、音。

「……………すごい、口説き文句だな……………」

声は無く歯を見せて笑った私を、彼は金の矢のような目で貫いた。

「誓う」

円卓が金の粉光を纏わせる。  
人と人の誓約。対価は同じ。

「誓う」

金粉が巻き上がり、時に文字のように、時に渦のようになっては  
天へ昇っていった。そして、キラキラと舞い落ちてくる光。  
誓約は成った。

「じゃあ、行こう」と私。

「さて、行くか」と彼。

「次はどこへ行こうか」と私。

「西が良い。確か大きな湖があったはずだ」と彼が言い。

そして私たちは、肩を並べて歩き出した。

この、黄色い朽木が突き刺さる紫色の大地、その果てまで続く、  
白い道を。



延々と。

また、二人で。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5408z/>

---

彼は全き人の子の

2011年12月18日04時45分発行